

平成27年度 校区外部評価

# 学校評価表(最終まとめ)

学校名 品川区立第四日野小学校

1.基礎学力の定着

本校の基本的な考え方 (特に身に付けさせたい力、 重点的な実践内容など)		◇基礎・基本を確実に定着。特に、読解力の向上を目指す。 ◇表現の場を充実させ、思考・判断・表現力を向上させる。 ◇学習習慣を確実に定着させる。 ◇授業改善に努め、児童の学習意欲を向上させる。(ICT活用推進、英語授業実践を含む)					
評価指標(成果指標)	評価	自己評価		校区外部評価委員から		学校から	
		評価についてのコメント		自己評価についてのコメント		教職員の意見	
①	学力定着度調査等における「読解」に関わる問題について、習熟基準を達成する児童を80%以上にする。(読解力を付けるためにに行った取組について)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の考えや、主人公の気持ちなどを考える際、自分の考えの根拠を叙述に即して説明させた。</li> <li>「こそぞ」言葉に着目させ、指示語が指示している内容を捉えさせた。</li> <li>毎日の音読の宿題や、読書活動の推進、クイズを出し合う活動を行った。</li> <li>テストの際には、問題文をまずしっかりと読んでから、文章の読み取りをさせるようにした。</li> </ul>	さまざまな活動を取り入れ目標を達成することができ評価された。今後も、見出された課題の解決に向けて取り組んでいってほしい。特に、読解力の育成は国語を中心にしながら、全教科をあげての取組がもたらされるものでもあることから、その点での取り組みを期待したい。	・問題や児童によって差が見られた。今後は90%を目指したい。 ・学年や学級の平均点が標準点に到達していても、理解の遅い児童への対応は地道に続けていきたい。	・読解力、言語能力向上に着手して、指導方法を改善し、学力の二極化を解消していく。	
②	進捗三校で実施する計算検定の達成率を85%以上にする。(計算力を付けるためにに行った取組について)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間計測をし、成長を自己評価させながら計算練習(100まで、50まで四則計算)を繰り返し行った。</li> <li>タブレットのドリル教材を活用して反復練習を行った。</li> <li>カルタやフラッシュカードを活用しゲーム要素を取り入れて学習した。(特に九九の暗記において)</li> </ul>	はげみ学習や繰り返し指導の徹底等により、確実に成果が出ており評価される。その一方で学力に関する二極化の傾向も見出されることから、今後の課題として習熟の程度に応じた個別化への取組を期待したい。	・学力二極化の問題、個に応じた指導の必要性は感じている。対応していきたい。	・今後、個別の家庭学習課題や放課後補習などの充実を検討していきたい。	
③	授業態度について、保護者対象アンケートを実施。肯定的な回答を80%以上にする。(「返事・あいさつ・よい姿勢」を身に付けるために行った取り組みについての評価)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおける肯定的な回答は約85%だった。</li> <li>始業前後に姿勢を正せるようになってきている。継続が必要。</li> <li>朝の出席を取る返事では、音で反応する機械を使うことで、声を出さずとも意識する児童が増えた。</li> <li>あいさつでは、まず教師が元気にあいさつをするように心がけている。</li> <li>返事に関しては、「何のために返事をしっかりとするのか」を児童に伝え、目的意識を持たせて行った。</li> <li>授業規律を徹底することで、子どもたちは教師の話をよく聞き、聞き逃すまいとしている。</li> </ul>	各学年とも姿勢良く積極的な授業態度が見受けられ、指導の成果が現れていると評価される。今後も授業規律の確保に向けて取り組んでいってほしい。	・「良い姿勢」については指導の効果が表れてきていると感じる。 ・「しっかりと話をしている」や「大きな声で挨拶している」の項目については課題が見られる。	・「しっかりと話をしている」や「大きな声で挨拶している」の項目についても定着を図ってきたい。	
④	学習意欲について、児童対象アンケートを実施。肯定的な回答を80%以上にする。(学習意欲を高めるために行った取り組みについての評価)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童がたぶん発表できるように、発表の方法を工夫したり、導入の仕方を工夫した。</li> <li>できるだけタブレットを使う機会を増やした。</li> <li>頑張リーターや、ランキングなどを用いて、他者と比較できるようにしている。</li> <li>授業意欲について、80%の保護者から肯定的な回答をした。</li> <li>授業によってばらつきがある。好きな教科を増やしていきたい。</li> </ul>	さまざまな工夫を取り入れた結果、学習意欲も着実に向上してきており評価される。今後は、さらに学習意欲を構成する「わかる」「できる」「やってみよう」の3段階に着目し、わかる授業の確実な取組とともに、学んだものを活用し、自分もやればできるという実感(効力感)を獲得させながら、やってみようという意欲につなげる取組を期待したい。	・学習意欲を構成する3段階に着目し、教材研究、授業改善をより一層行っていく。	・指導方法について全教職員で学び合い、高め合っていく。	

2. 社会性・人間性の育成

本校の基本的な考え方 (特に身に付けさせたい力、 重点的な実践内容など)		◇「四日野つ子のちかい」をもとに、全校で一致した生活指導を推進し、社会での基本的なマナーやルールを守る態度を育てる。 ◇学級集団での関わり、学年・学校を超えた他者との関わりを充実させ、自尊心を高めるとともに、他者を尊重する態度を身に付けさせる。 ◇年間を通じた健康教育、体力増進の取り組みを推進する。					
評価指標(成果指標)	評価	自己評価		校区外部評価委員による評価		学校から	
		評価についてのコメント		自己評価についてのコメント		校区外部評価についての教職員の意見	
①	「返事・あいさつ・よい姿勢」を重点目標とし、年間を通じて指導する。年3回の強化月間には「がんばりカード(評価表)」を基に家庭と協力して指導・評価を行い、定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードを活用した期間は、子どもたちも意識付けが出来た。</li> <li>返事や挨拶については、認めたり、褒めたりすることで定着させている。他の子どもたちもそれを見てがんばろうとしている。</li> <li>授業の開始、終了時には、よい姿勢を特に意識させるように声かけをしている。よい姿勢の児童を褒め、できていない児童に気付かせるようにしている。</li> <li>返事については、声が小さかったり、返事前に発言をしてきたりする児童がいるが、今後も指導を続けていく。</li> <li>長時間よい姿勢を持続させることが難しい。その場ですぐに声をかけるなど指導を続けていく。</li> </ul>	・カードを活用した取組等によって以前より進んであいさつをする児童が増えてきたといえる。返事、挨拶、良い姿勢は、日常的な継続的指導によって確実に身につくのものであるため、今後も継続して取り組んでいってほしい。 ・地域、保護者の方への挨拶が課題。	・あいさつについては、外部の方に対しても、進んで自分から進んでできるように継続して指導していく。 ・姿勢については全校一斉「姿勢タイム」を校内放送による指示も取り入れ、確実に取り組んでいく。	・まずは各学級担任による市民科の指導で意識付け、全教職員による日常的な声かけで備付けを行い、行動の姿容へとつなげていく。 ・「自らすんで挨拶」ができるように、まずは校内で顔を合わせた時、児童から先に挨拶できるように見守り、指導していく。	
②	自分や学級の課題を自ら考え、自分たちで解決しようとする態度を身に付けさせるために、市民科授業の工夫・改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラブルがあったときには、自分達で話し合わせるようにした。冷静に丁寧な言葉遣いで話し合いをさせることにより、落ち着いた問題解決できていることが多い。</li> <li>担任の失敗談を聞き、その時どうすれば良かったかと児童によりよい解決策を考えさせた。</li> <li>学級会など、児童に話し合わせる機会を多く設けている。</li> </ul>	課題解決力を身に付けさせていくことは一朝一夕では難しいことではあるが、小さなトラブルや出来事や好機とらえて対応できるような取組を期待したい。	・生じた問題に応じた適切な対処が出来るように機を捉えて具体的な指導をしていきたい。そして、自力解決できるようになったときには小さな事でも認め、ほめていく。 ・他者の意見も認めた上で、自らの考えを自らの口で伝えることができるように育てていく。	・市民科学習による予防的指導、日常生活における実践的指導を両輪として問題解決能力の向上を図ってきたい。	
③	異学年交流やたてわり班活動、異校種や異年齢の方々との交流を充実させ、認め合う(認められる)経験を多く積ませる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表委員会の児童による異学年交流遊びなども計画されていた。</li> <li>行事ごとに感想の交流などをおこなっている。</li> <li>6年生が中心が中心となって活動を行った。</li> <li>5年生がどう動いているのかわからず、何もできない様子が見られた。6年生の姿を見て動けるように声かけをしていく必要がある。</li> </ul>	異学年交流や縦割り班活動などで6年生が手本となり、その6年生を目指そうとする5年生以下の意識が高まるなど一定の成果が現れていると評価される。今後も活動を工夫しながら交流活動を通して関係性の構築に向けて取り組んでいってほしい。	・5年生は6年生のサポート、低学年は高学年に感謝するよう声をかけた。これまで積み上げてきた繋がりを大切にしながら指導を続けていきたい。	・今後も意図的、計画的な異年齢集団による学びを通して、児童の社会性を育む。	
④	年間を通じた休み時間の外遊びの徹底、手厚い水泳指導、養護教諭を中心とした計画的な健康教育や食育の展開などにより、健康な子を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には、外でよく遊んでいました。</li> <li>学級によって遊び場が中心となって外遊びを考え、全員が参加している。</li> <li>水泳指導にかける回数も十分確保している。</li> <li>課題が遅れている子の指導を休み時間に行うことがあった。外遊びを推奨する場合、その指導をいつやればいいのかわからないかなくてはならない。</li> </ul>	年間を通じた活動により、当初計画は確実に実行されていると評価される。子どもたちの健康、体力増進の観点から、今後も活動のあり方を工夫していってほしい。	・運動を愛好する気持ちを育てること、心から体を動かしたいと思え、外で遊ぶようにする。めあてをもって体育学習に取り組む子を育てていきたい。	・東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、運動を愛する心を育む指導のより一層の充実を図ってきたい。 ・休み時間については教室内での遊びが好きな子どもの気持ちや遊び文化を大切にすることも忘れずに指導していきたい。	

3. 小中一貫教育の推進

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)		◇児童一人一人に十分な学力と社会性・人間性を育成し、7年生に連続させる学校となる。特に、10歳の区切りを意識し、意図的・計画的な指導を展開する。 ◇連携グループでの研究・研修を通じ、教員同士の連携を充実させ、共通の指導を行う。			
評価指標(成果指標)	評価	自己評価	校区外部評価委員による評価	学校から	
		評価についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①	C	「大きな行事の前などに特別時間割を組む際、講師が担当する教科の時間は変更が難しく、結果として担任が指導する教科の指導が一時的に遅れてしまった。」	小中一貫教育の推進に向け、教科担任制を導入した点は評価される。今後は、その実施による成果分析を進めるとともに、実施に向けての条件整備を検討して欲しい。	・現状の課題の解決法を探り、教科担任制を実績に対応させることで定着させていきたい。	・教科担任制を児童に経験させることは、中学校進学に向けて有益である。今後は小学校の実情に合わせて改善していきたい。
②	B	「小中一貫の日」および「四校連携研究会」で、年間6回、小中相互の授業参観や情報交換を行い、各教科指導や生活指導における共通指導事項の確認や実践を図る。	「四校連携研究会」では、児童・生徒の実態についての情報交換を通じて、小学校で身に付けておくべきことや互いの学習内容等を知り、小学校・中学校での体系的な指導を意識する機会となっている。	・現況も情報交換を密にし、指導に役立てていきたい。 ・余の内容等については見直しを図ってきたい。	・さらなる充実、発展のために、会の目的、効果を考え、改善を図ってきたい。
③	B	「腰骨を立てる」をキーワードに、着座時の姿勢を正しくすることを旨とする。	・授業のはじめと終わりのあいさつの時は決まったセルフとともに姿勢を保っている。 ・「腰を立てる」を意識してよい姿勢になる児童が増えた。 ・授業中も「姿勢」と声掛けすると、どのような姿勢をしたらよいか身に付きつつある。 ・足裏びたや、寝たてのキーワードは、授業中に姿勢が乱れた時にも使おうと効果があった。 ・身長にあった机、椅子を使用させることを徹底したことも改善の要因だと思う。	・授業に臨む子供たちの姿勢は以前よりも大きく改善されてきており、真剣に授業に取り組もうとする姿勢は評価される。今後も意識して取り組んで欲しい。	・全教職員の目で見守り、よい姿勢の児童を褒め、全員が意識できるようにする。

4. 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)		◇学校を開き、教育活動の「見える化」を促進することで、保護者・地域からの信頼を得られるようにする。さらに、教育活動や児童の姿を以て、選択される学校を目指す。 ◇行事や面談など様々な場面で、職員が自らを開き、保護者や地域との相互理解を密にできるようにしていく。			
評価指標(成果指標)	評価	自己評価	校区外部評価委員による評価	学校から	
		評価についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①	B	・2年生の町探検や、3年生の職場体験など充実していたと思う。 ・90周年の関連で授業の中で地域を紹介するスライドショーを作成した。自分達で調べること、更に学んだことがあったようだ。 ・学芸会で、地域を巻き込んで劇を作った。周年に向けて、地域発見の単元を国語でもうけた。 ・90周年があったので、何かと地域のことに関わることが多かった。 ・90周年などもあり、地域との連携がしっかりできていた。 ・町探検や、いも料理活動など主に生活科で保護者や地域の方々と連携することができた。	90周年ということもあり、地域との連携をさらに深める取組が学年活動や各種学校行事で取り組まれており評価される。今後は、地域との連携に向けて継続して取り組んで欲しい。	・これまでの取組を継続していくためには関係者との連絡、調整等が重要になる。そのため、次学年担当者との引継ぎ等を実行していききたい。	・今後も深化、発展させていきたい。
②	B	・ここ数年、学級通信を出す教員が増えてきている。 ・学級だよりにも工夫がみられ、今行っている学習の様子などをかまみることができた。 ・配布の際には児童に説明しながら配布をした。 ・保護者や地域の方に学校、児童の様子を分かりやすく伝えることを意識して、ホームページで情報を発信している。	さまざまな情報媒体を活用して情報発信がなされて評価される。ホームページにも工夫がみられるが、やや更新頻度が遅れることも見受けられるので、工夫をお願いしたい。	・ホームページの更新が遅れてしまうことがあるため、行事等について、実施後速やかに更新する。	・ホームページ更新のワークフローを見直し、円滑な更新ができる仕組みを作る。
③	B	・保護者と話す機会があることで、家庭での様子がよく分かった。 ・家庭訪問を年度初めに行うことで、子どもや家庭についての理解を深めることができた。	家庭訪問、保護者会が計画的に実施され、学校と家庭との相互理解に役立っていると評価される。今後も実施時期や実施回数等を検討しながら取り組んで欲しい。	・家庭訪問は自宅確認のためにも継続したい。 ・保護者会の時期と回数の見直しをはかりたい。	・保護者との協力体制を築く上で、効果的な時期、回数、内容を考え、改善する。
④	B	・学期ごとの大きな行事、モーニングコンサートや音楽集会の公開、学区内の親子への図書館開放など、学校を訪れてもらう機会を多く設ける。	・モーニングコンサートの日には、地域の方や保育園の園児等がたくさん聴きにきてくださり、子どもたちも動きになったようだ。 ・多く観覧していたと思う。特にモーニングコンサートは保育園さんが毎回参加してくれている。	・学校を訪れる機会をさまざまに工夫しながら実施して、地域や保護者等から高い評価を得ており、今後も継続して取り組んで欲しい。	・公開行事は学校の教育活動について、地域、保護者の方にご理解いただく機会。今後も充実を図ってきたい。

5. 環境整備・美化

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)		◇児童が安全に過ごせるよう、常に「安全確保」の高い意識を持って、点検・改善を行う。 ◇児童の豊かな学びに資する、校内美化・校内整備・掲示物の充実・努める。			
評価指標(成果指標)	評価	自己評価	校区外部評価委員による評価	学校から	
		評価についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①	B	・休み時間の看護当番活動や、毎月の安全点検を確実に実施し、組織的に安全の確保を図る。	・休み時間の看護当番活動や、毎月の安全点検を確実に実施している。 ・施設の不備や児童の安全について見過ごすことのないよう責任をもって取り組んでいる。	・当初計画が確実に実施されており評価される。子供たちの安全確保はもっとも重要なことでもあるので、今後も計画的な安全点検と日々の目配り等、継続して取り組んで欲しい。	・長期休業中に校内安全点検、教具・備品の整理を行った。担当責任者を中心に協働し整備と美化に努めた。
②	B	・児童の学びの成果が表れ、相互評価の場ともなる掲示を工夫する。また、季節や時節に応じた掲示も充実させる。	・四日野美術館をはじめ、季節に応じた掲示を工夫した。 ・子どもの作品や他学年からのメッセージを掲示するなどした。 ・普通の行事作文ではなく、行事への取り組みの始まり・取り組み最中・行事後と三つの章に分けて作文を書いた。最後には5・7・5・7に短歌でまとめた。	・掲示物や展示物が適切になされており、評価される。今後も、展示方法や配置などを工夫しながら取り組んで欲しい。	・作品が完成したらすぐに掲示するなどし、より多くの児童の作品が目につけられるようにする。また、掲示した後に、作品の破損や画額の手入れなどがないか点検をする。
③	C	・屋上ガーデンやはらばを持続的に整え、児童の学習での活用を促進する。	・季節の野菜と仲よくならうで活用した。 ・屋上につれていく機会があまりなかった。 ・ガーデンマスターの方が綺麗にしてくださっているが、児童はわくわくする時くらいしか利用できていない。	・授業や活動等との関係で必ずしも十分に活用されていないようであるが、教室内ではできない体験の場でもあるので、今後の活用方法に関して検討して欲しい。	・指導内容との関連を見直し、学習で活用する機会を増やしていきたい。

6. いじめ防止の取り組み

本校の基本的な考え方		◇「いじめは起こる」という前提に立ち、未然防止および発生時の迅速な対応に、全力を尽くす。 ◇すべての児童が、いじめを自分のこととして受け止め、自分たちで防止・解決しようとする力を育成する。 ◇互いを認め尊重し合う学校・学級の風土を作る。					
評価指標(成果指標)	評価	自己評価		校区外部評価委員による評価		学校から	
		評価についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明		
①	B	学年ブロック会や週2回のSCを交えての職員打ち合わせなど、情報共有を常時密にし、早期発見・早期対応を行う。	・気になる児童の様子や行動が見られた場合には、すぐに担任の先生やSCに相談し情報共有をするようにしている。	計画通りに実施されており、評価される。いじめ対策の基本は、早期発見・早期対応であることから、今後も情報共有をしっかりと取り組んでほしい。	・特に学年ブロックでは、よく話し合いをして情報交換を行ってきた。	・今後も情報交換を密に行い、早期対応に努めたい。	
②	B	生活アンケート、担任による子供面談、SCによる全員面談など、児童が気持ちを伝えられる場をできる限り確保し、早期発見に努める。	・担任と子どもたちの関係は良好で、授業中の保健室来室などがなかった。学校全体が落ち着いていた。 ・SCの配置により、児童が相談できる場所があることが、心の支えになっている。 ・児童が気持ちを伝えられる場を確保し、早期発見に努めた。	様々な取組によりいじめの早期発見に向けた体制を構築しており評価される。特に、担任との良好な関係ができあがっていることは子供たちの安心感を醸成していくうえでも重要な点であるので、今後も継続して取り組んでほしい。	・これまで実施してきたアンケートや面談などを今後も継続して繰り返し行い、早期発見に努めたい。	・早期発見、問題への対応等全てにおいて多くの目で見守り、チームで対応していくことを心がけたい。	
③	B	市民科授業を中心として、「いじめ根絶宣言」の達成に向けた指導を計画的に展開する。	・各学級で指導されていた。特に行事後の異学年のほめあいなどもよい。子どもたちは明るく、陰湿さがない。 ・担任の経験や新聞の記事等を例に指導した。 ・市民科のセカンドステップの授業を活用した。	具体的な事例などを通して「いじめ」のもつ問題を理解させるとともに、いじめの起きない学級づくりに向けて今後も取り組んでほしい。	・授業のみならず、常に呼びかけることが必要。	・常に人権意識を啓発しながら指導していく。	
④	B	児童に正対し、まずは教師がそれぞれの児童のすべてを受容する姿勢を示す。	・受容する姿勢を示し、日々取り組んだ。 ・笑顔を忘れず、正対した。 ・不適切な行動をとった児童に対しては、強く叱ったり怒鳴ったりするのではなく、まずは行動の理由について話を聞くように努めている。	学校あがりの取組によって、子どもたちと担任との信頼関係が構築できていると評価できる。今後も日ごろの関係を重視しながら取り組んでほしい。	・授業以外での関わりも大事にし、日頃から信頼関係を築くことを意識していく。	・スクールカウンセラーとも相談しながら、児童一人一人に合った指導方法を考え対応していく。	

7. 特色ある教育活動

本校の基本的な考え方		◇ICT機器を効果的に活用し、児童の学習意欲を高め、児童がよりよく考える授業を展開する。 ◇近隣の保育園との連携・交流を一層推進し、児童の学びの連続性を担保し、滑らかな接続が図れるようにする。 ◇学校ボランティアをさらに活用し、地域とともにある学校作りを努める。 ◇「みんながつながる ハトンをつなげる 四日野90周年」を合言葉に、90周年を児童の学びの機会として教育活動に位置付け、学習を充実させる。また、地域からの信頼を一層獲得できるようにする。					
評価指標(成果指標)	評価	自己評価		校区外部評価委員による評価		学校から	
		評価についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明		
①	B	保育園との連携に際しては、保育士と本校教諭の事前・事後の打ち合わせを密にし、園児にとっても本校児童にとっても価値のある活動を計画・実施していく。	・保幼小連携担当として、保育園と頻りに連絡を取り、交流活動を実施した。 ・保育園とは連携ができていて、園児にとってはよい体験になっている。	年間を通して保育園との交流が実施され評価される。今後も交流活動の内容や進め方を相互で検討しあいながら進めてほしい。	・年間を通して、1～4年までの学年が1回ずつ交流してきた。	・複数回の活動をとおした学びの高まりが得られるよう交流学年を絞るなどの改善を図ってきたい。	
②	B	保護者・地域による学校におけるボランティア活動を一層推進する。今年度はボランティア導入のねらいや意義を改めて明確にし、互恵性のある活動を目指す。	・学習ボランティアの保護者の方々は非常に熱心に取り組んでいた。	保護者・地域のボランティアが学校に積極的にかかわる体制ができており評価される。今後も、様々な機会を活用しながら呼びかけを行うとともに、活動の場の計画的な利用方法等について検討してほしい。	・学習内容によってはボランティアの方が、手持無沙汰なこともあった。	・計画的に有効活用していきたい。	